

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学習支援・ことば 一番星スピカ			
○保護者評価実施期間	令和8年4月7日		～	令和8年4月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	令和8年4月7日		～	令和8年4月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組	さらに充実を図るための取組等
1	イベント(集団活動)の充実は保護者も職員も認めてくれているところであり、児童も楽しみにして登所してくれているものようだ。マンネリしない様、また、児童の特性にあったものを提供できるよう、考えて行くことが大切だと思う。	マンネリにならないように、また、その日登所予定の児童にあった集団活動を入れるようにしている。また、曜日固定の児童が多いので、毎週違う分野の活動が出来るようにイベントを組んでいる。	全国の児童がどういった活動に興味を持っているのか調査していき、取り入れていくのも、マンネリにならず、時代にあったもの、目新しいものを行っていくきっかけになると思う。

2	<p>職員の専門性があるところが強みだと思う。保育士や元教師、専門リハビリ職の職員が多数いることから、専門的な支援や療育、アドバイスを行えることが多々あることが良いところだと思う。</p>	<p>それぞれの職員の得意な部分を生かして療育に繋がってもらっている。また、時折アドバイスをもらったりして児童の支援に入れて行っている。</p>	<p>専門的な資格保有者に指導してもらった研修などを行っていったら施設の充実に繋がるのではないかな。</p>
3	<p>支援内容が個別支援計画に基づいている部分が多いところが強みだと思う。 全児童画一的な支援内容ではなく、個々の得意不得意を理解した支援内容に少しずつ変更され、行えているところが、ここに合わせた支援計画に基づいたものになっていて良いと思う。 計画にも反映されているが、保護者からの要望などがダイレクトに支援や関りに反映されている部分もある。それは出来ない、と突っぱねることはまずなく、各ご家庭の考え方を尊重している傾向にある。</p>	<p>全児童が同じ療育は出来ないことは当然なので、それぞれが出来るレベルに落とし込んだ療育を行っていることはそれぞれの職員の思考のたまものだと思う。</p>	<p>職員同士、児童の特性を理解しあえるように話し合える時間をさらに設けていき、議論し合わせ、同じ方向を見ていけるようにすることが大事だと思う。</p>

<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
---	---------------------------------	------------------------------------

1	<p>支援内容は個別支援計画に基づいて行われていると感じることが多い反面、まだまだ個々の特性に特化した療育内容にはなり切れていない。</p> <p>【集団活動】とうたっているからか同じことを同じように（指示されたように）行えることが良しとする空気もあることが事実で、個々に対応しきれているかといえば、そうでない時もあると思う。</p>	<p>レベルや特性の大きな違いがあると難しいというところと、人員の数、場所、時間の問題、職員によっての理解度の違いがあると思う。</p>	<p>上記の『強み』とも同じ考え方が出来るが、職員同士、児童の特性を理解しあえるように話し合える時間をさらに設けていき、議論し合わせ、同じ方向を見ていけるようにすることが大事だと思う。</p>
2	<p>午前中には児発のお子様、午後には小学生・中学生と忙しいため、職員間で話し合いや会議、共有をする時間が足りない傾向にあるということ。</p>	<p>お子様が居る時間が長い、パート職員が多い、時短勤務の職員も多いということが要因かと思う。</p>	<p>意見を合わせるものではなく各自で進められる研修は、動画研修を言う形をとり、隙間時間に行えるようにしている。しかし、共有しあいながら意見を出さなくては改善が見られないようなものでは、時間を作ったりツールを使う必要があると思う。会社側が与えるのではなく、職員一人一人に自覚をもってもらい、どのような形だったら共有しあう時間が取れるのか、意見を出してもらい創意工夫してもらおう予定になっている。</p>

